

# 特定研究の経緯と概要

仁藤敦史

【はじめに】

本書は国立歴史民俗博物館が一九九一年度から九三年度にかけて、特定研究「列島内諸文化の相互交流―北部日本における文化交流―」（研究代表者阿部義平・考古研究部）の一環として実施した、古代文献班を中心とする報告書である。古代文献班共通の課題は、古代の日本列島北部における人と物の交流の実態とその特質を究明することであり、列島および北東アジア地域との関連を重視して、北方交流資料集の作成をその最大の目的とした。古代文献班は、特定研究の正式メンバーである遠藤巖（宮城教育大学）・熊田亮介（秋田大学）・古瀬奈津子（国立歴史民俗博物館）・仁藤敦史（国立歴史民俗博物館）に加え、研究協力者として、熊谷公男（東北学院大学）・酒寄雅志（國學院大学栃木短大）・若月義小（立命館大学）・渡部育子（秋田大学医療技術短期大学部）・武廣亮平（日本大学）らの協力を得て活動した（所属は当時のまま）。特定研究終了後においても、一九九五年度～一九九七年度においては、文部省科学研究費補助金基盤研究（B）（1）（研究代表者 秋田大学教育学部 教授熊田亮介／課題番号07301041）により研究を継続することができ、その成果の一部を本研究報告に取り入れている。本研究報告の成果は十分なものとは言いがたいが、今後のたたき台になればと考えている。

【目的】

国立歴史民俗博物館では、わが国の歴史と文化を解明するため、開館以来、歴史・民俗・考古および関連諸科学の研究者の協業により、多くの研究を推進してきた。そのうち、特定研究は、当面する重要な課題を選び、フィールドワークを中心に進める研究である。国立歴史民俗博物館が一九九一年度から九三年度にかけて、実施した特定研究「列島内諸文化の相互交流」は、列島内各地で生み出された特色ある社会と文化を、地域を越えた交流に焦点を当てることで浮き彫りにすることを目的とし、その作業を通じて複眼的な視点から列島史の再構築を行おうとしたものである。具体的なフィールドとして関東・北方・南方の三地域が選ばれたが、そのうち「北部日本における文化交流」は北方地域の解明を担う研究チームとして発足した。当該研究はいわゆる蝦夷文化の基盤形成と歴史を解明することを目的に、主に五つの課題を設定した。

① 蝦夷形成期の文化交流と基盤形成を示す統縄文期を中心とした諸遺跡の発掘調査。

② 古代から中世にかけての蝦夷地域における海運と権力形成を示す城館・港湾都市の発掘調査。

③ 統縄文期の交流を検証する出土遺物の産地分析。

④ 統縄文期の交流を示す遺跡基礎資料の集成。

⑤古代の蝦夷を中心とした北方交流資料集の作成。  
このうち⑤の課題を担当するものとして組織されたのが古代文献班である。

古代文献班の課題は、文献史の立場から古代の日本列島北部における人と物の交流の実態とその特質を究明することにある。列島および北東アジア地域との関連を重視して、北方交流資料集の作成をその共通の目的とした。従来の北方史研究に対して、付加すべき新たな研究視角としては列島北部およびその他の地域との交流を示す木簡・漆紙文書・墨書土器などの出土文字資料の集成、環日本海地域の交流を示す外国史料の集成、特徴的な北方文物資料との対比、などが考えられる。

〔組織〕(所属は原則として一九九三年当時、※は研究代表者)

古代文献班

遠藤 巖 宮城教育大学教育学部 教授(中世史)

熊田亮介 秋田大学教育学部 教授(古代史)

古瀬奈津子 国立歴史民俗博物館歴史研究部 助教授(古代史)

※仁藤敦史 国立歴史民俗博物館歴史研究部 助手(古代史)

研究協力者(ゲストスピーカー)

熊谷公男 東北学院大学文学部 助教授(古代史)

渡部育子 秋田大学医療技術短期大学部 助教授(古代史)

小口雅史 法政大学文学部 助教授(古代史)

若月義小 立命館大学 非常勤講師(古代史)

武廣亮平 日本大学文理学部 助手(古代史)

酒寄雅志 國學院大学栃木短大 助教授(古代史)

〔研究期間〕

一九九一年度～一九九三年度

〔経過〕

一九九二年度

第一回研究会 九月二～三日 秋田県秋田市ふきみ会館

一二日

渡部育子「古代の出羽国について」

熊谷公男「古代の蝦夷」

研究報告をめぐる討議

史料集についての検討

一三日

酒寄雅志「渤海国の史的展開」

若月義小「高句麗滅亡前後の東北アジア情勢と肅慎・靺鞨」

研究報告をめぐる討議

現地見学 秋田城

第二回研究会 三月一九～二〇日 福島県いわき市いわき東急イン

一九日

熊田亮介「北方交流資料集 抄出基準について」

「北方交流資料集」をめぐる討議

二〇日

現地見学 いわき市文化センター「古代陸奥国といわきの歴史展」

見学

一九九三年度

第一回研究会 九月二九～三〇日 宮城県仙台市KKRホテル仙台

二九日

「北方交流資料集」をめぐる討議

三〇日

「北方交流資料集」をめぐる討議

第二回研究会 三月一八～一九日 国立歴史民俗博物館

一八日

「北方交流資料集」をめぐる討議

一九日

「北方交流資料集」をめぐる討議

論文集の体裁の検討

「北方交流資料集」採録基準

なお、一九九五～九七年度においては、文部省科学研究費補助金基盤研究(B)(1)(研究代表者 秋田大学教育学部教授熊田亮介/課題番号07301041)により研究を継続した。

### 〔成果と反省〕

各研究分担者に得意の分野から報告していただき、広い視野から北方地方の文化交流のあり方を考察することができた。また、『北方交流資料集』の採録基準や分担を定め、具体的なカード取りの作業を行った。資料集作成の具体的な動きは、第二年度以降にスタートしたため、正規の研究期間中には十分な活動ができず、カードの編集には思いのほか時間を要した。本来ならば自治体史の県史レベルの編集体制が必要にもかかわらず、短期日に集めたため、各種刊本史料の切り張りに終始しており、もとより十分な校合は不可能であり、誤りも多いと思われる。したがって、本資料集は資料リストとして活用していただければ幸甚である。付録として北方地域に関する文献リスト、文武官人の官職補任表、

外国使官職表、地図なども付したが、北方交流史理解の助けになるものと考えた。なお、本資料集が主に依拠した先行史料集としては、高橋崇氏が編纂された『蝦夷史料』(吉川弘文館、一九五七年)があるが、越後・佐渡や外国史料を含めた増補版とはいえず、このような形で公表することを快諾していただいたことを心から感謝したい。さらに、カード取りや編集に参加していただいた多くの学生・院生の方々にもお礼申し上げます。

(国立歴史民俗博物館歴史研究部)